

kims University Press, Baltimore, 1971.

【編著書】

McC. Brooks, Ch. and Levey, H.A.: *Humorally-Transported Integrators of Body Function and the Development of Endocrinology*. 183—238 in McC. Brooks, Ch. and Cranefield, P.F. (eds.): *The Historical Development of Physiological Thought*. Hafner, New York, 1959.

六 投稿原稿は、コピーを一部添付すること。原稿は著者校正の際も原則として返却しないので、手元にコピーを一部残すこと。

七 著者校正は、原則として原著・総説・研究ノート・広場・資料を対象とし、初校のみとする。校正は印刷上の誤植を訂正するに留め、原稿の改変や、その他の組み替えは認めない。校正刷りの返送期日を厳守すること。期日までに返却されない場合は責とみなす。

八 刷り上り一〇印刷ページ(四〇〇字詰原稿用紙で二四枚)までは原則として無料とし、超過分と図表製版の実費は著者負担とする。

九 論文別刷は五〇部単位とし実費で作製する。別刷希望者は校正刷同封の申込書に部数を明記すること。

一〇 原稿の送り先

〒一一三 東京都文京区本郷二丁目一一一

順天堂大学医学部医史学研究室内

日本医史学雑誌編集委員会

編集後記

▼本号では原著三報、広場二報、研究ノート・資料各一報、追悼・記事のほか、医史学文献目録を掲載することができ、かなり厚手となった。まさに、うれしい悲鳴である。とくに原著論文は学会誌の中心であり、ここ数年は投稿数も多く、抄録号を除く各号でコンスタントに三〜四報を掲載できてきた。会員諸氏の活発な研究活動の反映であり、まことに同慶のいたりである▼毎年一回掲載している医史学文献目録は順天堂大学医史学研究室が大変な労力を費やして編纂している。その労力も分ることながら、もつとも神経を使うのは各論文をどの分野に分類するか、だそうだが、せめて本誌の論文だけでもキーワードがあれば、より分類が容易になる。また医史学文献目録のデータベース化の計画も進行中で、パソコン通信等によるデータベースの検索にはキーワードがやはり必須となろう▼本誌論文にキーワードを導入するには、その適用範囲、語数、英訳の有無などを検討し、投稿規定に追加しなければならぬ。そこで、ぜひとも会員諸氏のご意見を編集委員会にお寄せいただきたくお願い申し上げます▼ところでインターネットの普及は著しい。いまや日本でも多くの大学や高校のかなりで授業があり、著者の大学でも希望する学生には電子メールのアドレス(個人番号)が与えられ、インターネットによる就職活動などに利用されている。本号のミヒエル氏の論文は医史学研究における利用方法を丁寧に紹介されており、他の学会誌にもなかった貴重な報告といえよう。実際、氏のホームページに入り、そこから世界の医史学関連サイトに行ってみたところ、きわめて有用だった。会員諸氏のご利用をおすすめする。(真柳 誠)